

粉体技術

FUNTAI GIJUTSU

11

November
Vol.9, No.11, 2017

〈特集〉アジアにおける粉体事情と協会の海外交流活動

タイ東部経済回廊プロジェクトと期待される応用研究
マレーシアのパームオイル産業とバイオマスの利用について
韓国でのリチウムイオン電池材料の開発
中国とインドの粉体展示会
「海外交流委員会」について—役割と活動概要—

〈規格・標準化報告〉

“JIS Z 8890:2017 粉体の粒子特性評価—用語”の紹介

一般社団法人 日本粉体工業技術協会

The Association of Powder Process Industry and Engineering, JAPAN

平成29年度第2回リサイクル技術分科会

日 時：平成29年9月19日（火）13:00～16:00

場 所：熊本／上益城郡 熊本地震二次仮置場および同事務所

参加者：大矢コーディネータ、外川副コーディネータ、荻田代表幹事、
増井副代表幹事含め 計24名

報告事項：

1. 見学会：「熊本県災害廃棄物二次仮置場」 災害廃棄物二次仮置場 吉田洋昭 氏

国からの通達もあり、当初より災害廃棄物はリサイクル出来る方法で処理を進めている。見学した二次仮置場は熊本県が運営しており、震災直後より熊本市および他の市町村にある一次仮置場から約230万トンの廃棄物を受け入れている。この運営は「連合体」という形を取り、県内5社に加え東日本大震災で経験した企業7社で構成されている。主な処理先(再利用方法)は、セメント原料、土木資材、サーマルリサイクル、バイオマス燃料などである。再生利用率70%はほぼ目標を達成しており、残り30%は埋め立てや単純に焼却している。

工程の中には磁選機もあるが、鉄以外の金属はその後の手作業による分別となる。また、混合廃棄物には、土、瓦、コンクリート、プラスチック類といろいろ入っており、大きな機械があちこちにあるが、実際には各工程では手作業が多い。更に、周辺住民に対する粉じん防止対策などにも注意を払っている。



<仮置場見学の様子>

2. 講演会：「熊本地震と地域経済」

熊本大学大学院 鹿嶋洋 氏

経済地理学・産業地理学が専門の鹿嶋先生も、熊本市内にて実際に被災された。今回の熊本地震が地域経済にどのような影響を与え、復旧状況はどのようなのか？そして今後の立地政策や地域産業政策に必要なものは？をテーマに詳しく講演頂いた。

今回の熊本地震の地域経済への影響をまとめてみると、震災数ヶ月の落ち込みを経て、復旧・復興需要に基づいて急速に回復し、全体としてみれば着実な復旧が進んでいる。ただし、業種や地域によって回復度合いは異なる。業種では観光、地域では阿蘇の快復が遅れている。制約要因としては、交通網の寸断と人手不足が大きい。



<講演会の様子>

3. 情報交換会／懇親会

場所を熊本空港ホテルエミナースに移し、熊本大学生を9名招待し開催した。全員が熊本地震を経験しており、仮置場での作業状況や講演を真剣に見聞していた。中には、熊本県庁への就職内定者や近隣市役所への就職内定者もあり「行政が被災地に対して何をすべきか」を学べたと思う。また、懇親会では、会員企業の参加者と会話を深め、被災時の生々しい体験談や、企業における製造設備の役割など、有意義な情報交換が行えた。